

# やっときゃよかった、やってよかった防災式

近年、災害に強いまちづくり（防災）を遂行する上で「安全・安心のまちづくり」とスローガンを掲げる場所が多く見られます。確かに防災だけではなく、防犯を考える上からも必要なことなのでしょう。

今回は、「安全・安心のまちづくり」から、防災式を考えていきましょう。

## ◆シリーズ「あなたならどうする？」パート10

さて、「安全・安心」とは、どのような状態のことをいうのでしょうか？

「安全」を広辞苑で調べると「**安ら**かだ危険がないこと。物事が**損傷**したり、**危害**を受けたりするおそれがないこと」と記されています。簡単に言えば、危険が無い状態のことです。しか



し、それらは人間の力によって「安全な状態」を創り出している行為と考えられます。我々人間は、危険が無い状態になると、安全であると確信をしてしまいます。その確信の先には「安心」というものが生まれてきます。

次に「安心」を調べると「**心配・不安**がなく、**心が安らぐ**こと。また、**安らかな**こと」とあります。

「安全になれば、安心できる」これって、本当に正しい考え方なのでしょうか？考えてみましょう。

実社会では、誰がどこで「安全と思える状態」を作ってくれているのでしょうか？

答えとしては「判らない・・・」ですね。「私たちのまちは、安全で安心して暮らせるね」とよく言われています。でも、実際のところ、誰がどこで「安全で安心なまち」を作ってくれているのか知らないのが実情です。言い方を変えれば「どこかで誰かがやっている」だから安全で安心だと思いこもうとする「依存心」ではないのでしょうか。「私たちの町は安全で安心だ」「私の会社は安全で安心だ」というように。ところが、誰が「安全・安心」を担っているのかは知らない。「誰かがやってくれている」という、根拠のない他者への依存心からくる間違っただけの思い込みからなのです。人は「誰かがやってくれているという神話」を自分の中で勝手に創り上げてしまうのです。

しかし、ひとたび災害に襲われるとその神話は、いとも簡単に崩壊します。この時、はじめて自分が何もやっていない事の「ツケ」が回ってきたことに気付くのです。あなたは、どこの誰か知らない人を勝手に創り上げ、架空の人物に、自分や自分の大切な人の命を丸投げ（人任せ）していたのです。その時に慌てても遅いのです！「ツケ」の代償は「大切な命を削ぐこと」となるのです。

でも本当のところ、あなた自身ではわかっているの

です。「安全でもなく・安心もできない」ことは元々から判っていたことなのに「私だけは大丈夫」という根拠のない想定を創り上げることで、あなたは事実から顔を背け、見て見ぬふりや知らないふりをしていたのです。これらは、他人任せという恐ろしい連鎖式を知らずに「安全・安心」を神話化させてしまった現象です。

## 「安全→安心→慢心→過信→不意打ちの災害」

安全になれば、人は安心してしまいます。心理としては、慢心し、過信してしまうのです。そして突然の災害に見舞われる。この連鎖式には、欠けているものがあるから不意打ちを食らってしまうのです。何が欠けているの？

答えは「**信頼**」です。もしも誰かに「安心してください」と言われても、その人に信頼がなければ、非常に軽々しく聞こえませんか？**相手を信頼せずに安心できる**ということは皆無でしょう。

過去の災害でも、政府・行政・メディアの情報発信の失敗がまさにそのものです。信頼がない情報にも関わらず「情報」を出す。その度に、情報の錯綜から混乱を招き「緊急情報」だけでなく、「安全情報」までも信頼されないことになってしまいました。

では、どうすれば良いのか？

それは「安全安心のまちづくり」からの脱却！そして「信頼のまちづくり」へと方向転換する必要があります。

「信頼のまちづくり」では、組織は外部に向けて情報を発信しながら繋がりを作り、内部では弱い結びつきから対話を通して信頼関係を深める。組織の中では裏切られる等の多少のリスクを覚悟の上でやっていく。これが新しい「信頼のまちづくり」であり、「信頼できる安全安心のまち」となっていくと思いませんか。

お互いに信頼し合えるまちづくりのためには、他人任せではなく「**自分がやる**」という意識を持ち、お互いが「自分は大丈夫」と言い合える活動をしていく。

災害時「避難準備・避難勧告・避難指示」を聞くまでに、「**自分から避難する、または避難することと同様の行動をとる**」。そうすれば、自分や自分の大切な人の命を失うことがなくなります。「もっと早く避難勧告を出してくれていたなら」なんて言わなくても済むのではないのでしょうか。でも、そういう人達は、もっと早く避難勧告が出たとしても避難はしないでしょが・・・！

まずは、信頼できる情報を自分で手に入れる意識を持ち、信頼できる仲間を作る。これが、これからのまちづくりの上で、本当に大切なことなのです。

今回の防災式は、「安全安心のまちづくり」をする為に、まずは「**信頼のまちづくり**」から始めましょう。お互いが、信頼し合える安全で安心の楽しいまちに！

